



SPR-700

取付説明書

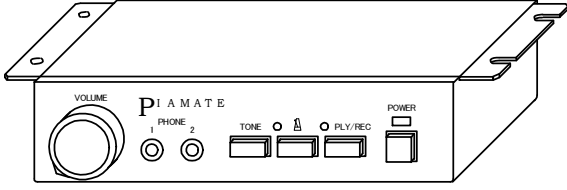

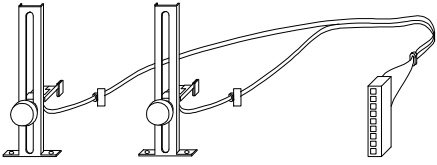
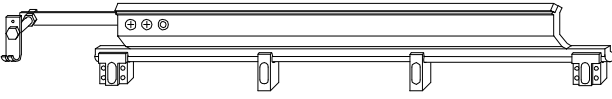
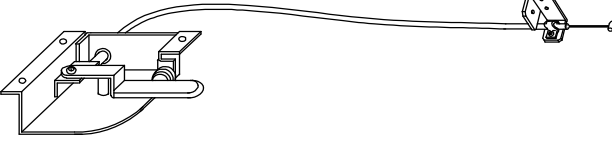
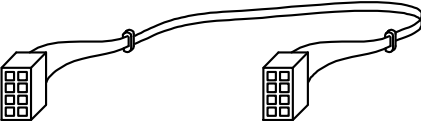


ニッポンエレクトロ株式会社

目次

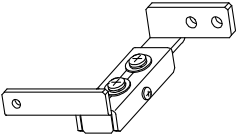
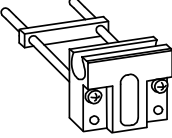
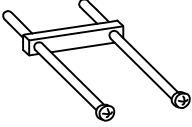


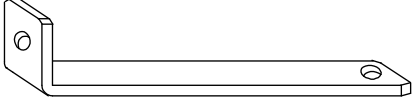


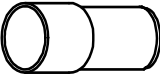
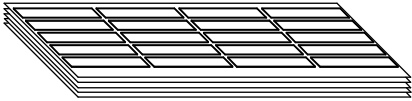
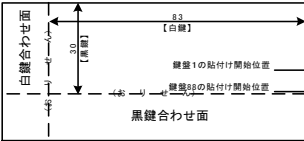

1. 部品一覧	1
1. 1 完成品	1
1. 2 取り付け部品	2
2. SPR-700の取り付け	4
2. 1 準備	4
2. 2 ストップバーの取り付け	5
2. 3 ストップレバーの取り付け	9
2. 4 キーボードユニットの取り付け	12
2. 5 ペダルユニットの取り付け	16
2. 6 音源BOXの取り付け	18
3. 調整	19
3. 1 準備	19
3. 2 鍵盤センサー調整	19
3. 3 ストップレバーの調整機能	20
3. 4 ペダル調整	20
4. 点検	21
5. 音源の設定	21
5. 1 チューニング	21
5. 2 黒鍵音量調整	22
5. 3 鍵盤深さ設定	23
5. 4 鍵盤ごとのレベル調整	24
5. 5 出荷設定	25
6. 配線接続図	26
7. メンテナンス	27
8. 本体仕様	27

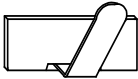










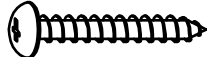
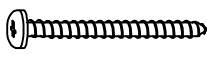
1. 部品一覧

1. 1 完成品

形 状	名 称	数 量
	音源BOX	1組
	キーボードユニット	1組
	ペダルユニット ・接続ケーブル 付き (ペダル～キーボード間)	1組
	ストッパー ・コマ 2個 ・コマ(大) 2個 付き	1組
	ストップレバー ・ワイヤーバンド固定金具 ・ワイヤーバンド 付き	1組
	キーボードユニット 接続ケーブル (音源BOX～キーボード間)	1組
	ACアダプタ	1
	ヘッドホン	1

1. 2 取り付け部品

形 状	部 品 名	数 量	用 途
	スプリング掛け金具 (M3×8mm ナベネジ付き)	1組	ストッパー
	コマ(大)+コマ取付板 (M3×45mm バインドネジ付き)	1組	ストッパー
	コマ取付板 (M3×45mm バインドネジ付き)	2組	ストッパー
	コマスペーサ1mm厚	2	ストッパー
	コマスペーサ2mm厚	2	ストッパー
	サポート金具	1	ストッパー
	スプリング(引張)	1	ストッパー
	スプリング(圧縮)	10	キーボードユニット
	バネ固定座	10	キーボードユニット
	反射シート	1式	鍵盤 (88) ペダル (2) 予備 (10)
	反射シート貼り付け紙	1	反射シート (鍵盤)
	フェルト(テープ付)	1	補修用

形 状	部 品 名	数 量	用 途
	ケーブルクランプ	5	ケーブル整理
	ナイロンクランプ	1	ケーブル整理
	結線バンド	2	ケーブル整理
	M3 x 45mm バインドネジ	2	コマ
	ナット 小(M3)	2	コマ
	ワッシャー(M3)	2	コマ
	M4 x 40mm バインドネジ	3	コマ
	ナット 大(M4)	3	コマ(2) サポート金具(1)
	M4 x 20mm バインドネジ	1	サポート金具
	スプリングワッシャー (M4)	1	サポート金具
	M3.5 x 12mm タッピングトラスネジ	15	音源BOX(4) ペダルユニット(4) ストップレバー(3) ワイヤーバンド固定金具(2) スプリング掛け金具(2)
	M3.5 x 20mm タッピングトラスネジ	1	予備 (スプリング掛け金具)
	M3 x 30mm タッピングバインド ネジ	10	キーボードユニット

2. SPR-700の取り付け

2.1 準備

(1) 使用工具

取り付け時に使用する主な工具を下記に示す。

No	工具名	用途
1	整調工具一式	ピアノの整調
2	プラスドライバー(No. 2)	各ユニットの取り付け
3	マイナスドライバー(6×100)	ストップバーの取り付け
4	定規	キーボードユニットの取り付け
5	金鋸*	ストップバーの切削
6	ペンチ*	ストップバーの切削
7	万力*	ストップバーの切削
8	ヤスリ*	ストップバーの切削
9	電動ドリル・ドライバー&鉄工用ドリル(3mm径)*	ストップバーの切削

*の工具はU1、U3ストップバーには不要です。

また電動ドリル・ドライバーは中速回転(350回転/分)以上の性能が必要です。



プラスドライバー



マイナスドライバー



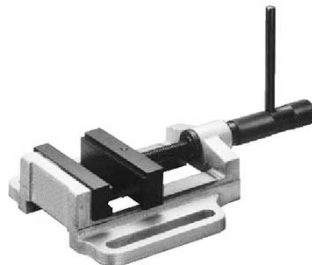
定規



金鋸



ペンチ



万力



ヤスリ



電動ドリル・ドライバー
& 鉄工用ドリル

(2) 取り付け作業前の準備

- ①ピアノの上前板、下前板及び、鍵盤蓋、鍵盤押さえの外装を取り外す。
- ②ピアノに整調が必要であれば整調する。

2. 2 ストップバーの取り付け

- (1)アクションをピアノから取り外す。
- (2)アクションよりダンパーストップレールを取り外す。
- (3)次高音部の固定金具を付属のサポート金具に交換する。既存のネジで取り付けられない場合は付属のM4×20mm、スプリングワッシャー、M4ナットに交換する。
- (4)ダンパーストップレールの位置へ下図の様に、(2)で外したネジを使用してストップバーのコマを仮止めする。既存のネジで取り付けられない場合は、付属のM4×40mmネジとM4ナットまたは、M3×45mmネジとM3ナットに交換する。

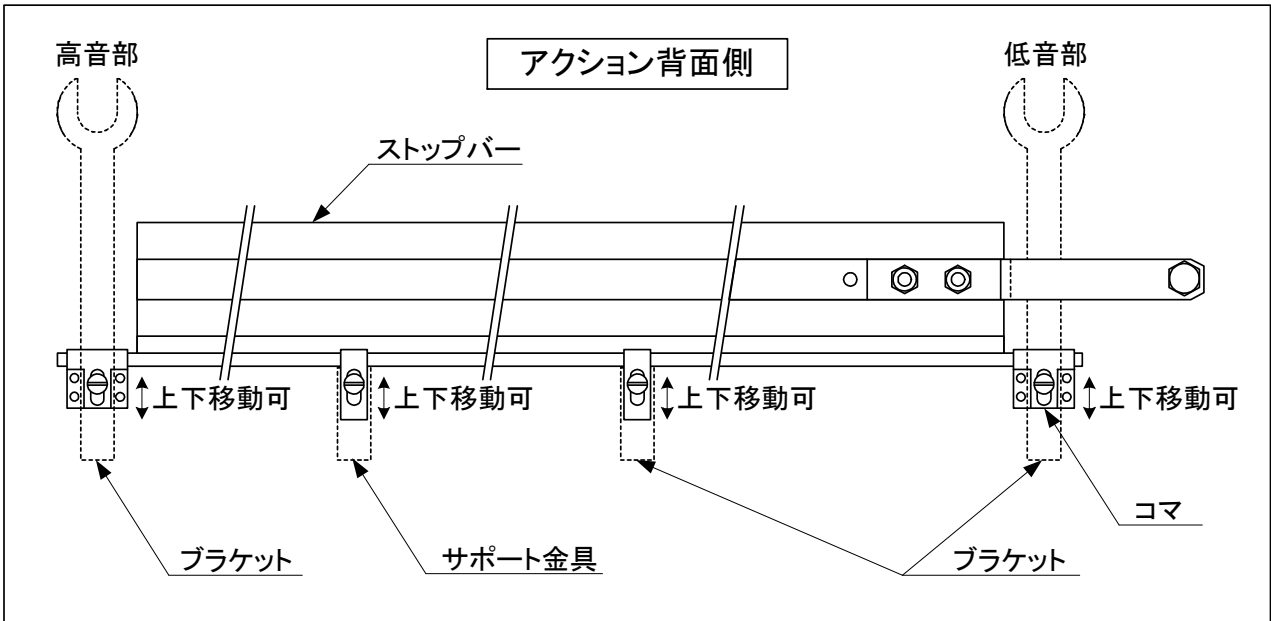


図 2. 2 - 1 ストップバーの取り付け

- (5)ストップバー全体を上下させ、打鍵時のハンマーが接触しない位置で、ストップバーを前後に倒して、スムーズに可動することを確認して固定する。

[次高音部に固定金具がない場合のサポート金具取り付け方法]

- (1) 次高音部センターレール上面にサポート金具とストップバーの前後位置が合う個所を探してドリル等で穴を開ける。(推奨穴径4.5mm)
- (2) センターレールにサポート金具をネジ止めする。
(M4×20mmネジ、スプリングワッシャー、ナット 各1本)
- (3) サポート金具にストップバーのコマを仮止めする。(M4×40mmネジ 1本)

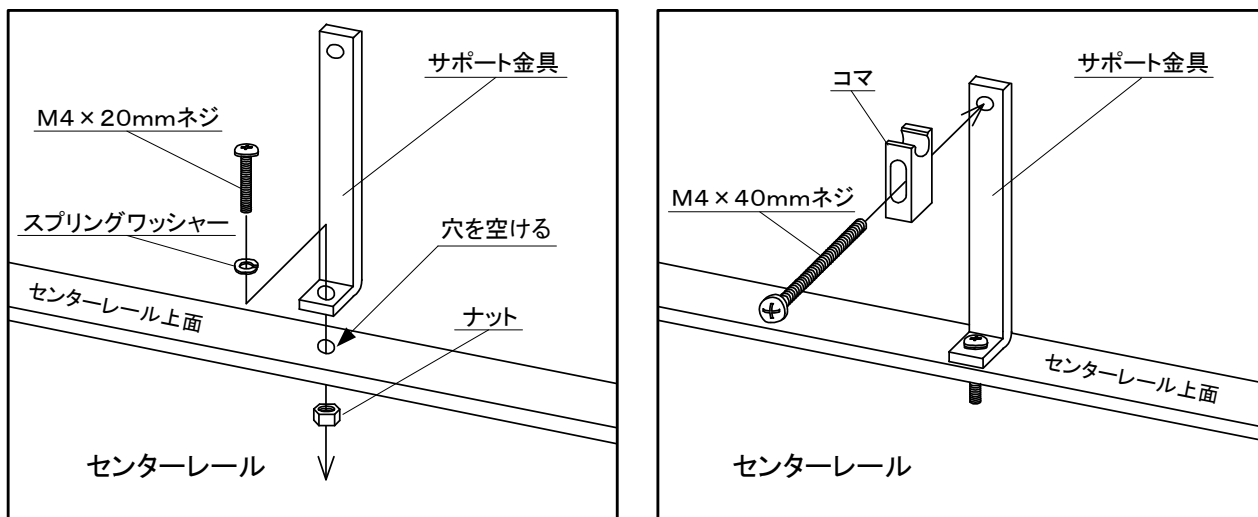


図 2.2-2 サポート金具の取り付け

[ブラケットが邪魔で取り付け出来ない場合]

ブラケットが接触するストップバー部分を下図の様に切削する。(U3型では切削済み)
 切削後は断面をヤスリで削りバリを取り除く。
 尚、ドリルがない場合は切削部分を金鋸で細かく切り込み、ペンチ等で折り曲げるようにして取り除く。この場合、ストップバーの回転軸部分を切らないようにする。

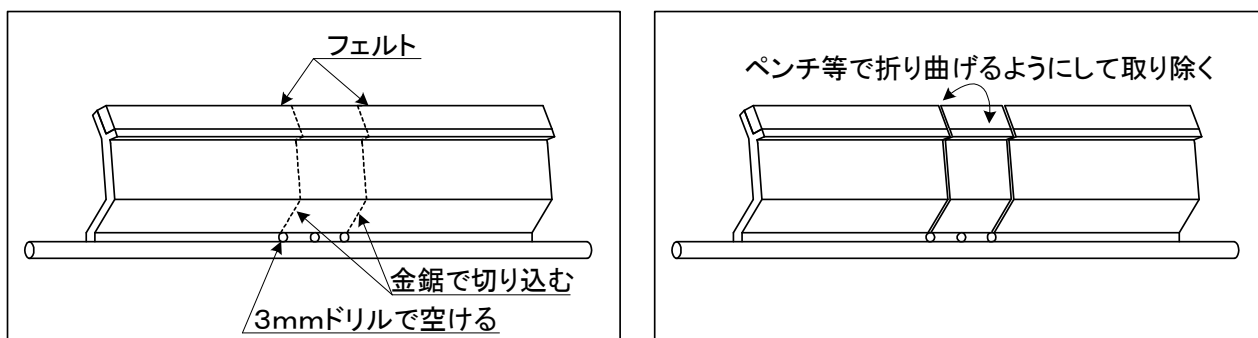


図 2.2-3 切削方法

[注意!] ストップバーを変形させない為に万力などで固定して加工を行う。

[ハンマーが接触する場合]

ハンマーが接触する場合は、その付近のブラケットとコマを固定しているネジを緩め、ストップバーを下げることでハンマーとの接触を解消する。コマの可動範囲で調整できない場合は、ブラケットに固定しているネジを外して、下図の様にコマ(大)とコマ取付板でブラケットを挟み込み固定する。

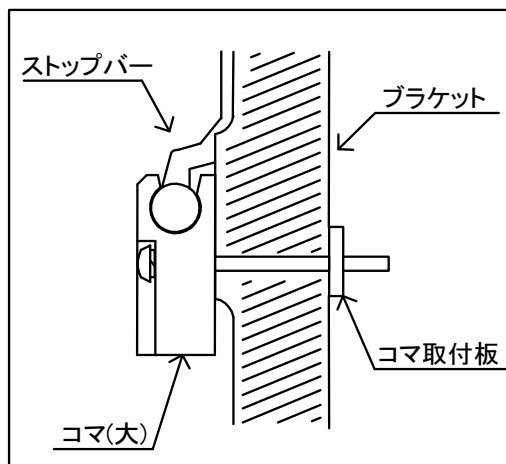


図 2. 2-4 コマ取付板による調整

- (6) アクションをピアノに仮止めする (ネジは締めない)。
- (7) ストップバーを弦側に倒して、ストップバーのスプリングホルダー延長上 10 cm ~ 13 cm の位置にスプリング掛け金具を取り付ける (下図参照)。
(M3. 5 × 12 mm タッピング 2 本)
尚、側板の材質によりネジの緩みや抜けが心配される場合は予備のネジを使用する。
(M3. 5 × 20 mm タッピング 1 本)

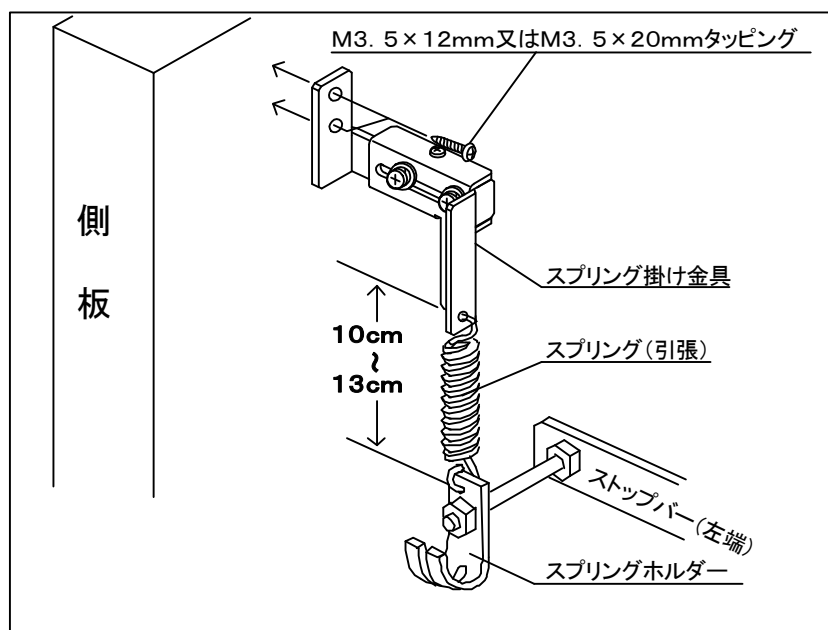


図 2. 2-5 スプリング掛け金具取り付け

- (8) スプリングを、スプリングホルダーとスプリング掛け金具に取り付ける。
- (9) ストップバーが引き戻された状態で、ハンマー動作の妨げにならないことを確認する。

(10) ストップバーを引き起こして、弾奏し消音できることを確認する。

消音状態で弦とハンマーの間隔が一定でなかったり、ストップバーの動きが重い場合には、下図のようにコマとブラケットとの間にコマスペーサを取り付けて、ストップバーの位置を調節する。尚、コマスペーサは取り付け易くする為に切り目を入れたり、一部を切り取るなどの加工が必要である。

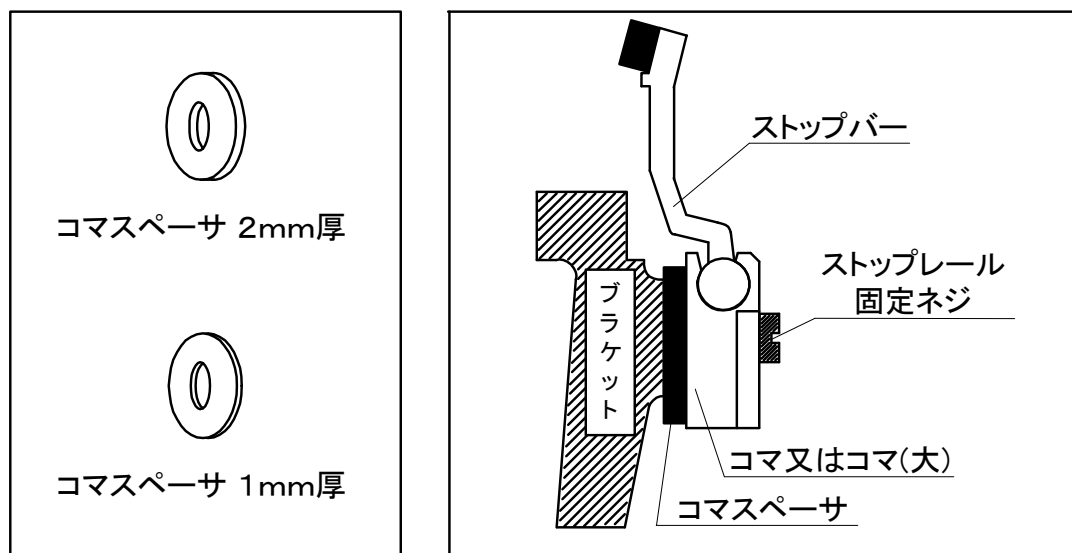


図 2. 2-6 コマスペーサによる調整

(11) スプリングを垂直に下げる為、スプリング掛け金具の長さを下図のように調節する。

スプリングが傾いているとストップバーが引張られ、または押されてブラケットに接触してストップバーの動きに支障が生じる場合がある。尚、スプリングを掛ける穴は2ヶ所設けているので、適切な方を使用する。

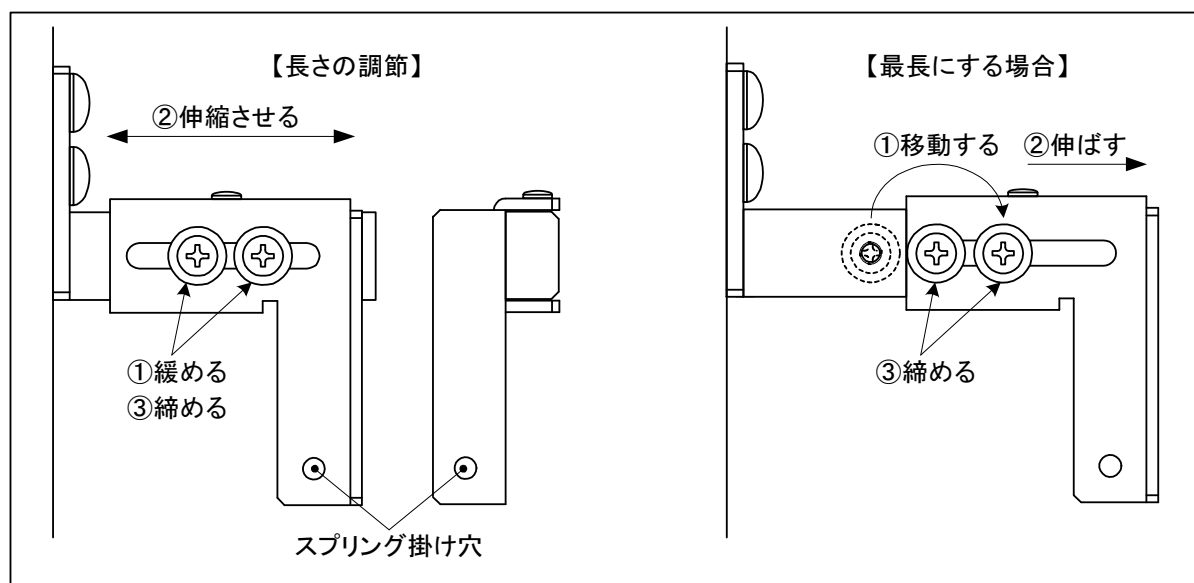


図 2. 2-7 スプリング掛け金具の調節

【注意！】伸縮用のネジは必ず2本の状態で使用すること。1本ではネジに緩みが発生して金具が外れることが予想される。また、金具の上部にある小さいネジはストップバーの役目を果たしているので、取り外さないこと。

2. 3 ストップレバーの取り付け

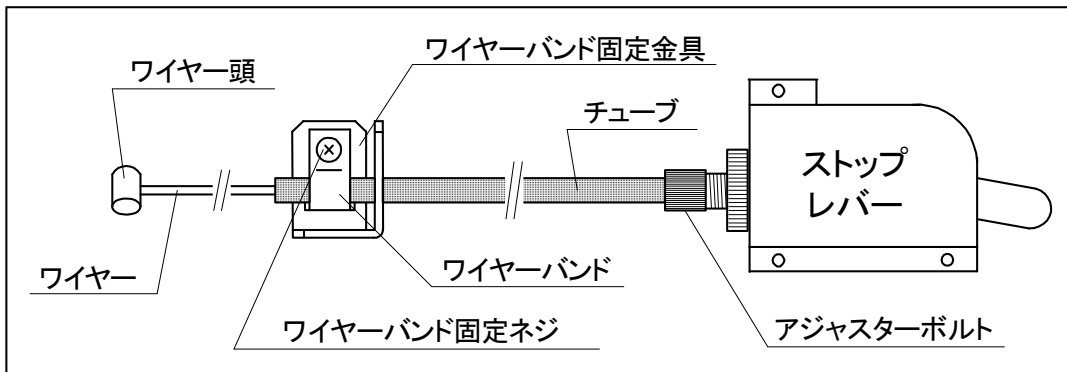


図 2. 3 - 1 ストップレバー全体図

- (1) ストップバーのスプリングホルダーよりスプリングを取り外す。
- (2) ワイヤーを下前側より棚板の奥へ通して、低音部ブラケットの左横に廻す。
- (3) ワイヤー頭をストップバーのスプリングホルダーに引掛けて、ワイヤーがスプリングホルダーから下へ直線的になる位置でワイヤーバンド固定金具を取り付けられるように、側板か棚板のどちらかの場所にマーキングを行う。
- (4) ワイヤー頭をスプリングホルダーから外し、アクションを一旦取り外す。
- (5) 下図のようにワイヤーバンド固定金具を (3) でマーキングした位置にネジ止めする。
 (側板の場合：M3. 5 × 12mm タッピング 2本)
 (棚板の場合：M3. 5 × 12mm タッピング 1本)

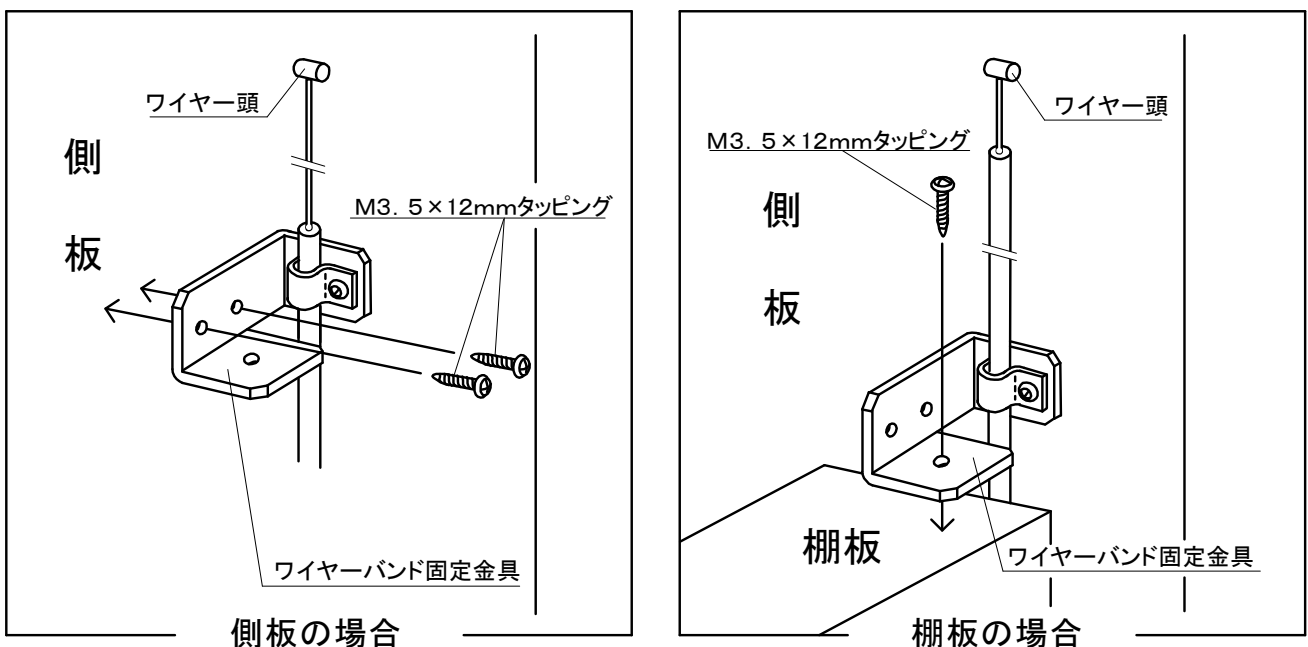


図 2. 3 - 2 ワイヤーバンド固定金具の取り付け

(6) 下図の様に棚板の左側下前方にストップレバーを取り付ける。

下前板を開いた時に当たらない位置を目安とする。(M3. 5×12mmタッピング 3本)

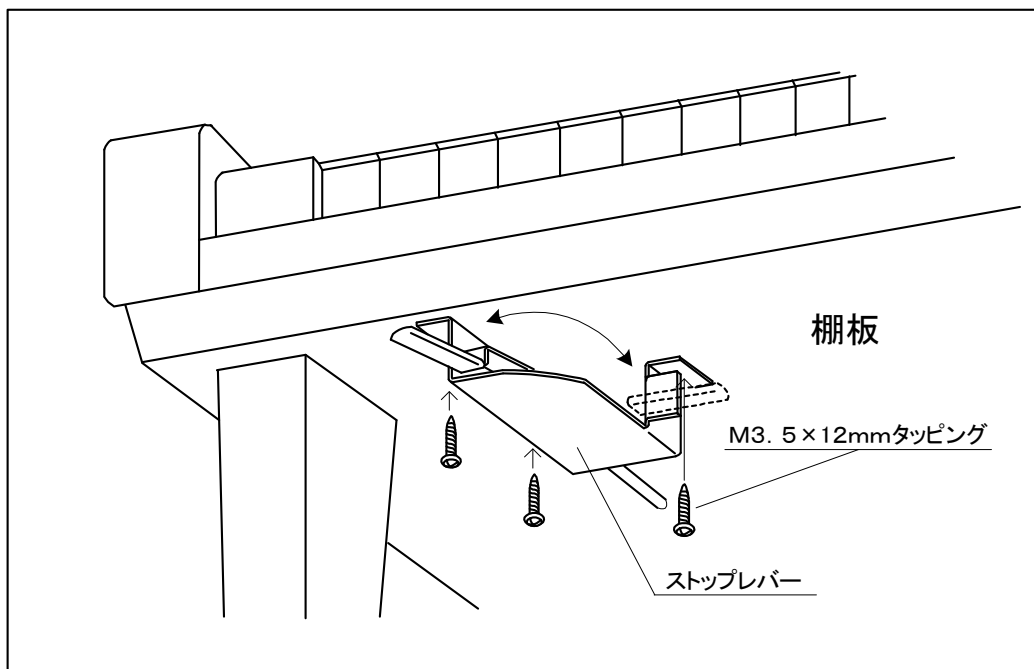


図 2. 3 - 3 ストップレバー取り付け位置

(7) アクションを取り付ける。

(8) 下図の様にスプリングホルダーにスプリングとワイヤー頭を取り付ける。

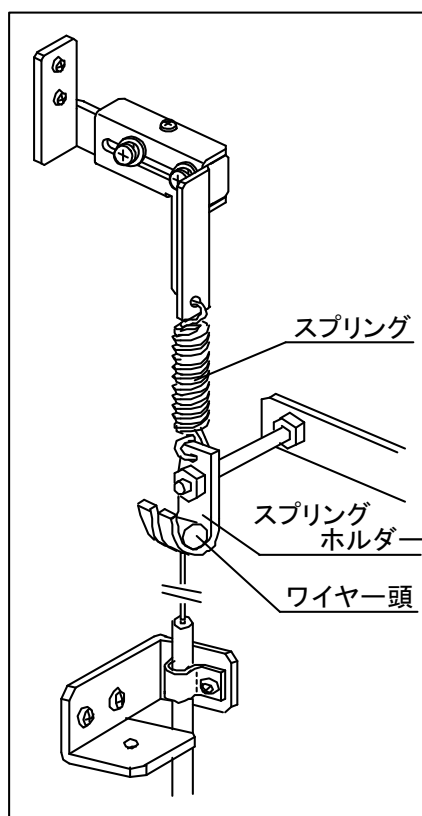


図 2. 3 - 4 スプリングホルダー取り付け

(9) 図 2. 3 - 5 のようにストップレバーの動作確認を行う。

- ・ レバーが A の位置まで引けて消音されていること。
- ・ レバーを B の位置へ戻すとスプリングの力によって、C の位置まで戻され打鍵できること。

尚、上記の動作ができない場合は図 2. 3 - 6 の様にチューブの固定位置を調整する。

- ①ワイヤーバンド固定ネジを緩める。
- ②チューブの位置を調整する。
- ③アジャスターボルトにチューブが突き当たっていることを確認する。
- ④ワイヤーバンド固定ネジを締める。

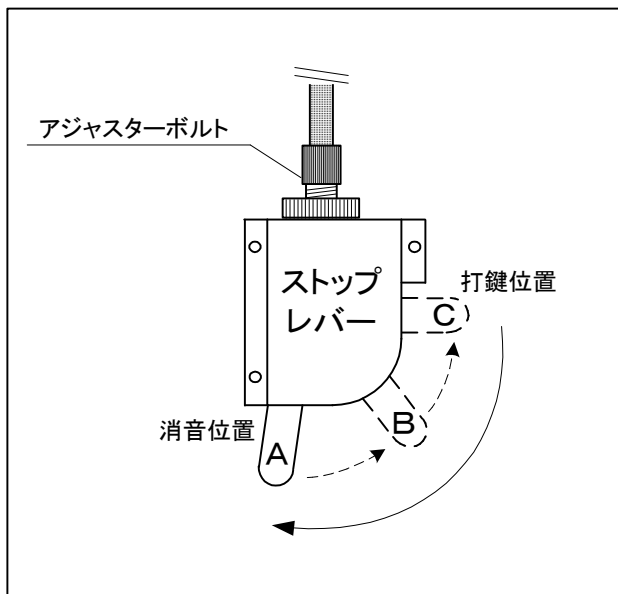


図 2. 3 - 5 ストップレバーの動作確認

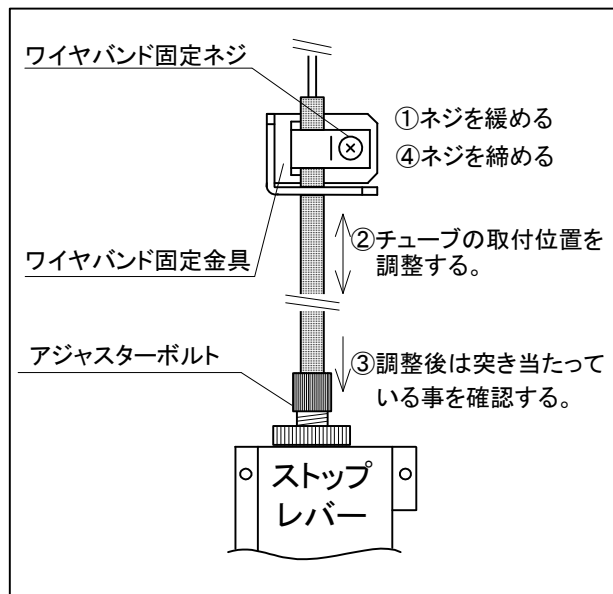


図 2. 3 - 6 チューブ位置の調整

【注意！】レバーが戻らなくなるので、ワイヤーは束ねたり、特定の場所に固定したりせずに自然な流れを作り、ワイヤーがスムーズに動けるようする。

2. 4 キーボードユニットの取り付け

(1) アクションと全ての鍵盤を取り外す。

(2) 下図の様に、キーボードユニットの基板側よりバネ固定座を挿入し、キーボードユニット背面からスプリング（圧縮）を取り付ける。尚、スプリング（圧縮）は時計方向に回しながら挿入すると取り付け易い。

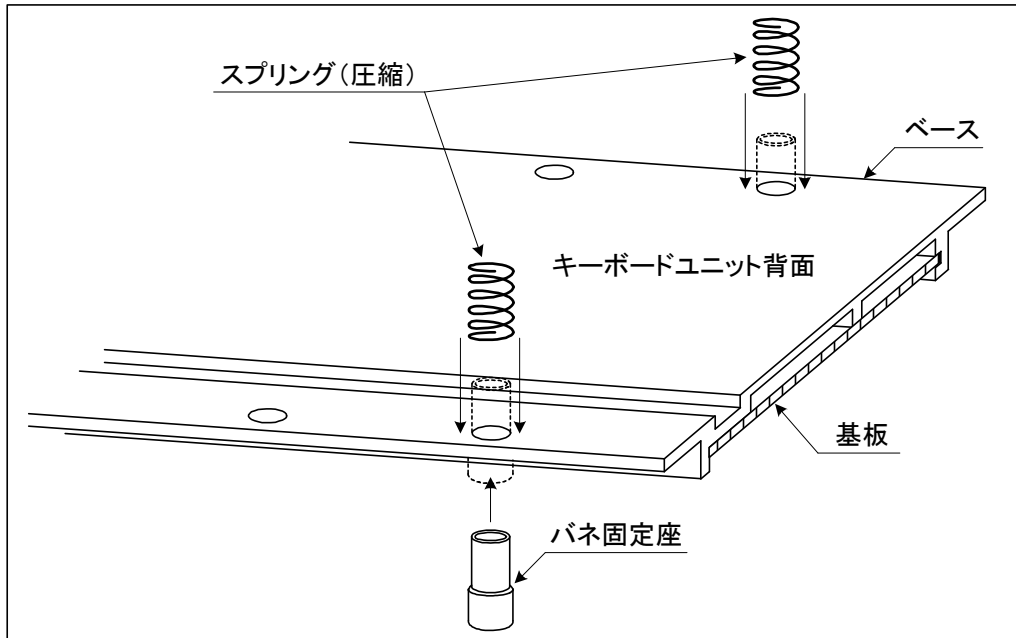


図 2. 4 - 1 スプリング（圧縮）取り付け

[バネ固定座の挿入位置]

標準挿入位置にはベースにマーキングを施している。（10ヶ所）

鉄板等の障害物により標準挿入位置での取り付けができない場合は適当な場所を選び取り付ける。

（推奨取り付け10ヶ所）

(3) 下図の様に、センサー側を手前にして、フロントレールとバランスレールの間にキーボードユニットを載せ、フロントレールから2～3mmの隙間を設けた位置に設置する。

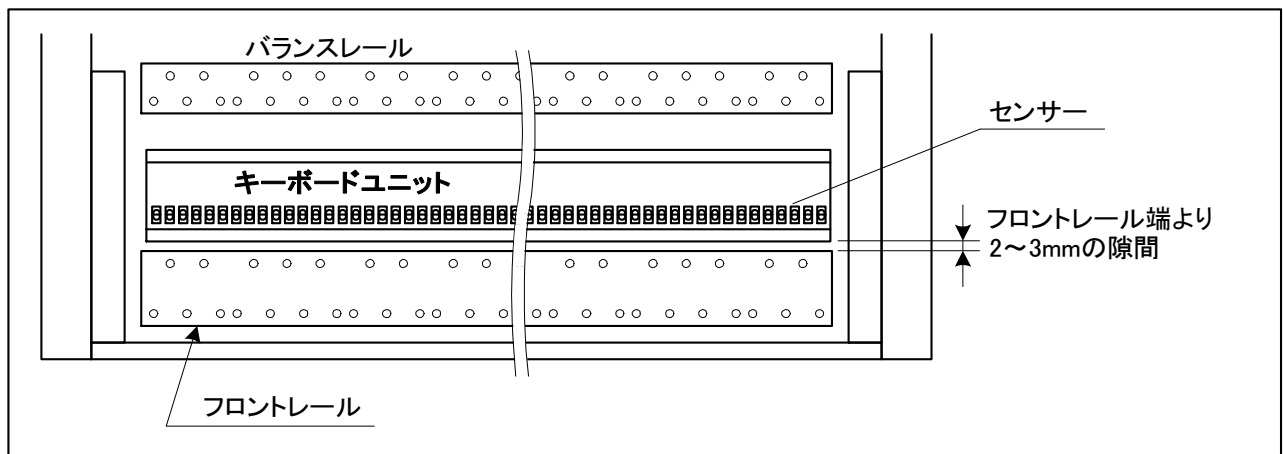


図 2. 4 - 2 キーボードユニットの取り付け

[キーボードユニットの設置範囲]

フロントレールの近くに障害物等があり、2～3mmの隙間を設けられない場合は、下図の様に白鍵バランスピンを基準として約40mmの隙間を設けた位置からフロントレール寄りに設置する。

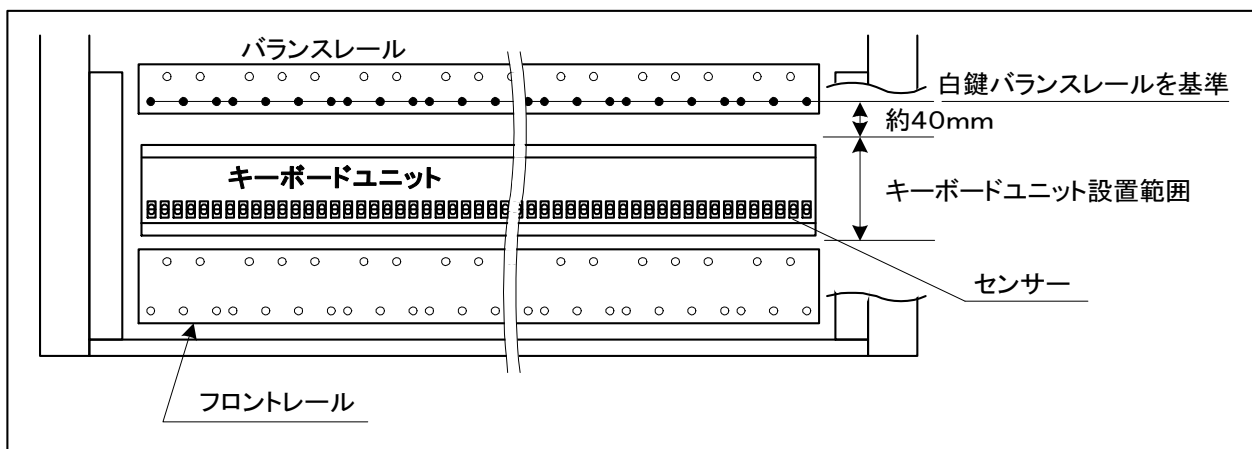


図 2. 4 - 3 キーボードユニットの設置範囲

(4) 下図の様に鍵盤No. 2とNo. 87を取り付け、センサーの中心線上に鍵盤の中心が重なるようにして左右位置を決定しネジ止めする。(M3×30mmタッピング 10本)

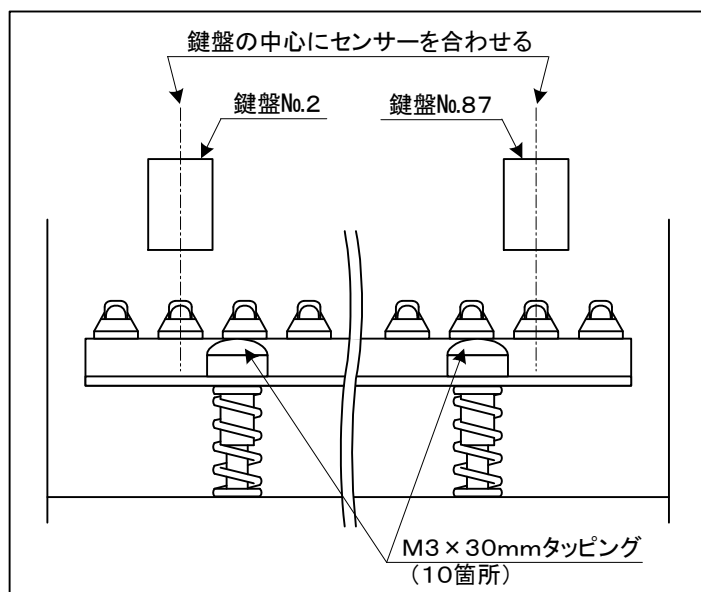


図 2. 4 - 4 キーボードユニット左右位置決め

(5) キーボードユニットのコネクタP401にキーボードユニット接続ケーブルを取り付ける。

(6. 配線接続図を参照)

(6) キーボードユニット取り付けネジ近くの黒鍵盤で低音、中音、次高音、高音の各域から1本ずつ取り付ける。

(7) 下図の様に黒鍵を押さえた状態で、基板上から黒鍵盤裏までの隙間が10mmになるように、キーボードユニットの水平を保ちながら取り付けネジを締めて、低音、中音、次高音、高音の各域の4ヶ所で高さを調整する。その際、オプションパーツであるセンサー治具を用いると容易に調整が可能である。

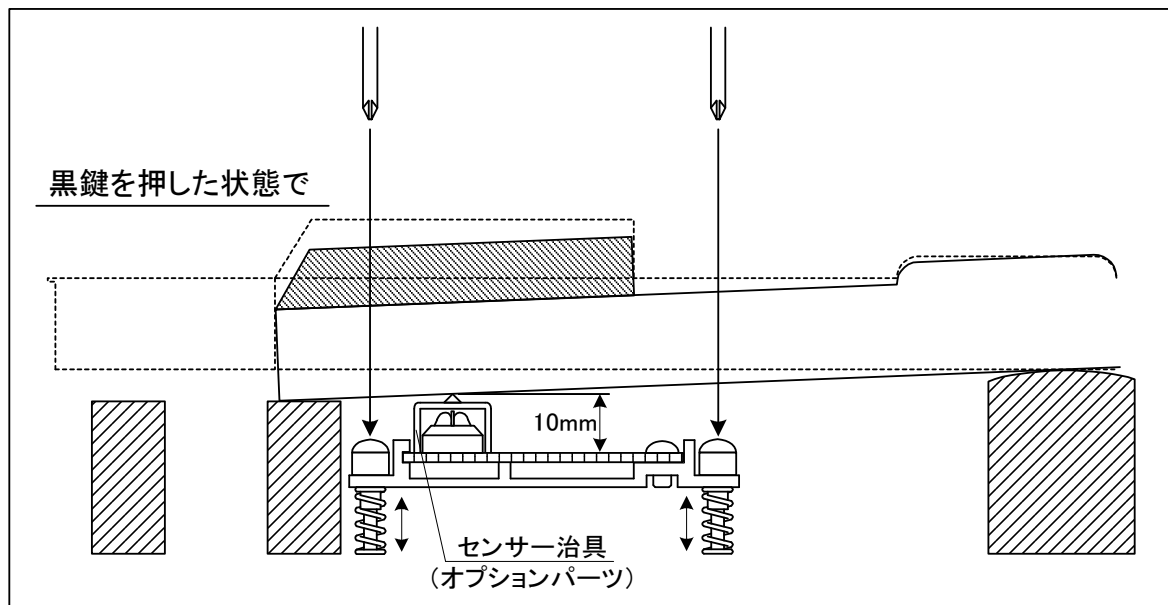


図 2. 4 - 5 キーボードユニット取り付け高さ調整

【注意！】基板上から黒鍵盤裏までの隙間10mmは必ず確保すること。10mm未満とした場合は、1回の打鍵で2回（鍵盤を押した時と離れた時）発音されることがある。

- (8) 白鍵盤と黒鍵盤から1本ずつを選び、反射シート貼り付け紙を用いて、反射シートを貼り付ける。反射シート貼り付け紙の白鍵盤は【白鍵合わせ面】、黒鍵盤は【黒鍵合わせ面】をそれぞれに折り曲げ、鍵盤の先端部に当てて、各鍵盤用の間隔を取り貼り付ける。(図2.4-6を参照)尚、鍵盤No.1とNo.88は反射シートを貼る場所の幅が広がっているので、図2.4-7の様に、反射シート貼り付け紙の【白鍵合わせ面】と【黒鍵合わせ面】の両面を折り曲げ、鍵盤の先端部と側面部の両面に当てて、鍵盤先端からと側面の両方向から間隔を取って貼り付ける。

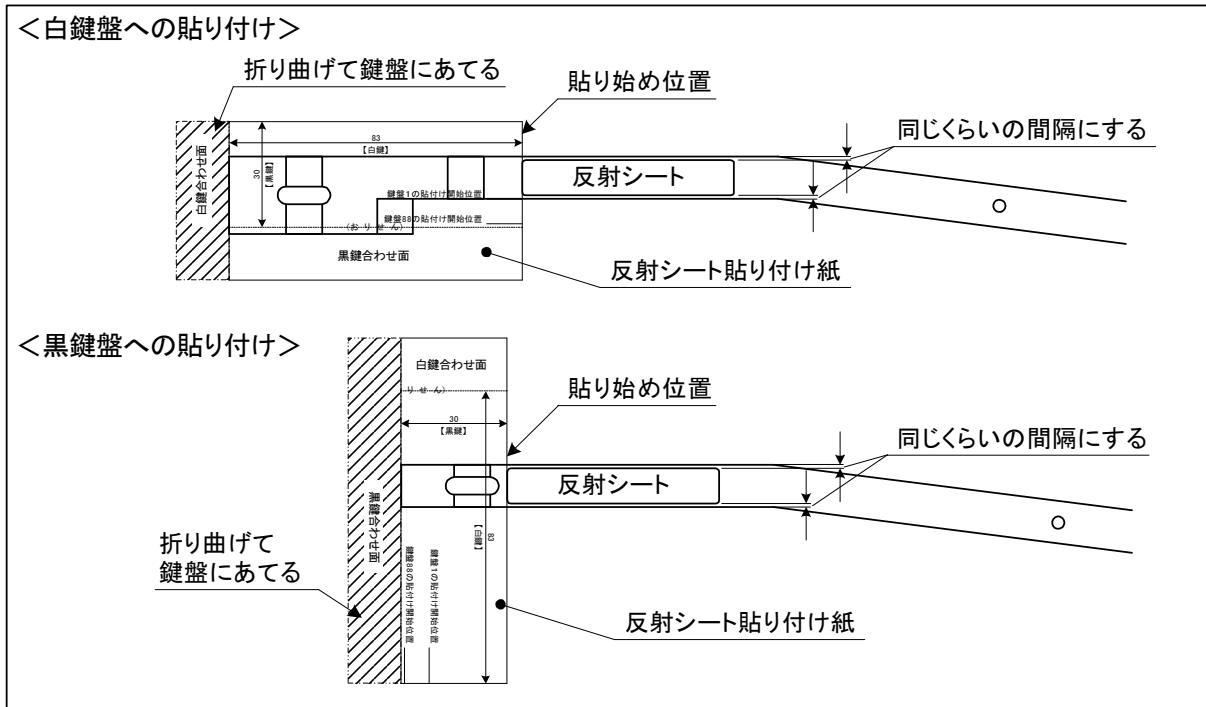


図2.4-6 反射シートの貼り付け

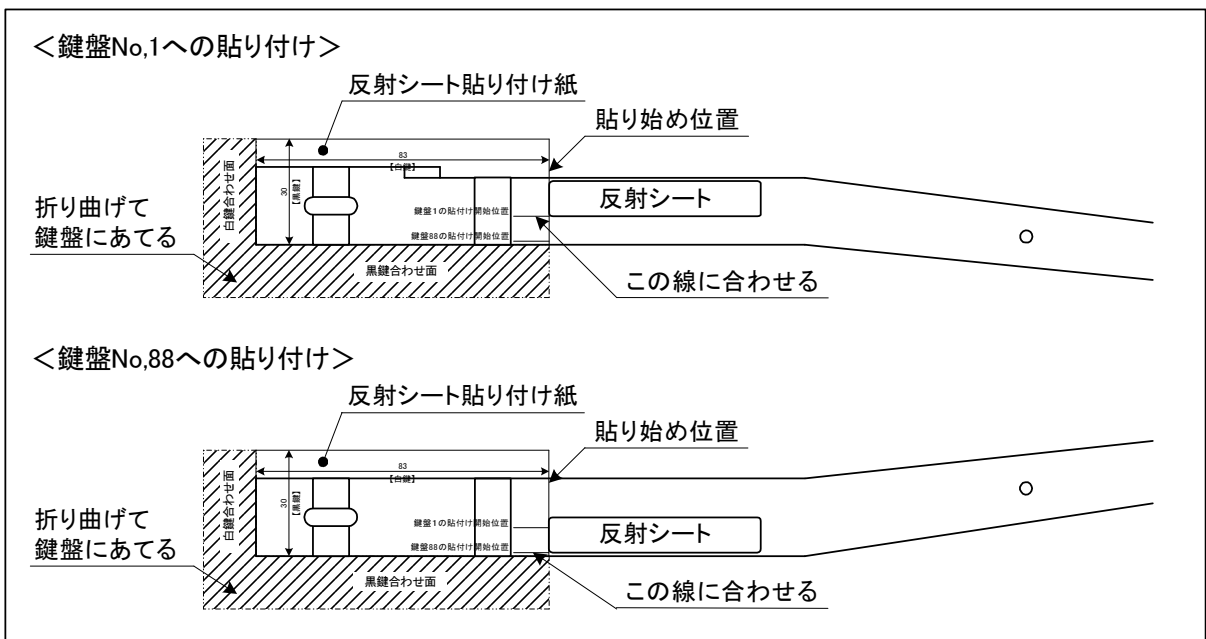


図2.4-7 白鍵No.1とNo.88への貼り付け

【注意!】反射シートの表面にキズがつき、ツヤが目立つ場合は、予備のシートに交換すること。そのまま使用するとセンサーの感度に狂いが生じ、強打音が出やすくなってしまいます。

- (9) 反射シートを貼り付けた鍵盤をピアノに取り付け、キーボードユニットのセンサーと反射シートの位置関係を確認する。反射シートの下にセンサーがある場合は、図2.4-6と図2.4-7の要領で全ての鍵盤に反射シートを貼り付ける。もし、センサーが外れている場合は、センサーに合わせて反射シートの位置を変えて貼り直し、残り全ての鍵盤も同じ位置に貼り付ける。

2.5 ペダルユニットの取り付け

- (1) ペダルユニットはサスティーン用とソフト用に分かれている。それぞれを下図の取付範囲内で、ペダル操作時に上下する部分の上側にセンサーが配置できる場所へ、ペダルユニットを仮固定する。

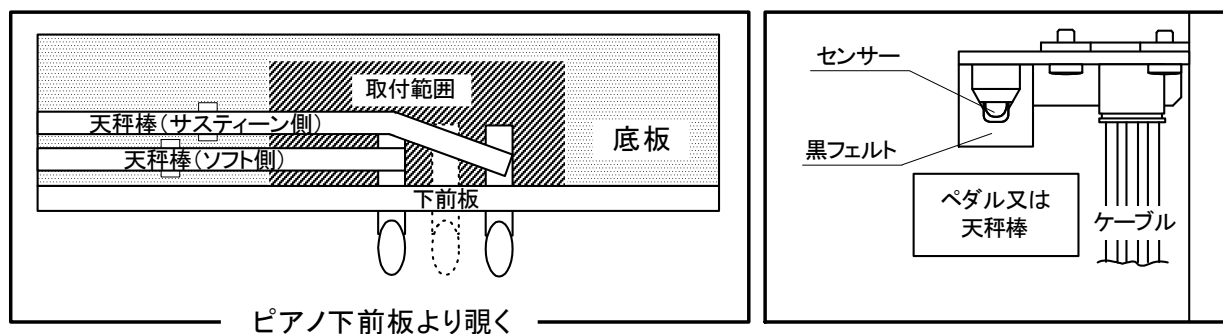


図2.5-1 ペダルユニットの取り付け

- (2) ペダルを踏み込まない状態で、下図の様に手回しネジで高さを調節して、ペダルや天秤棒の上面にセンサーの黒フェルト部が当たることを確認する。

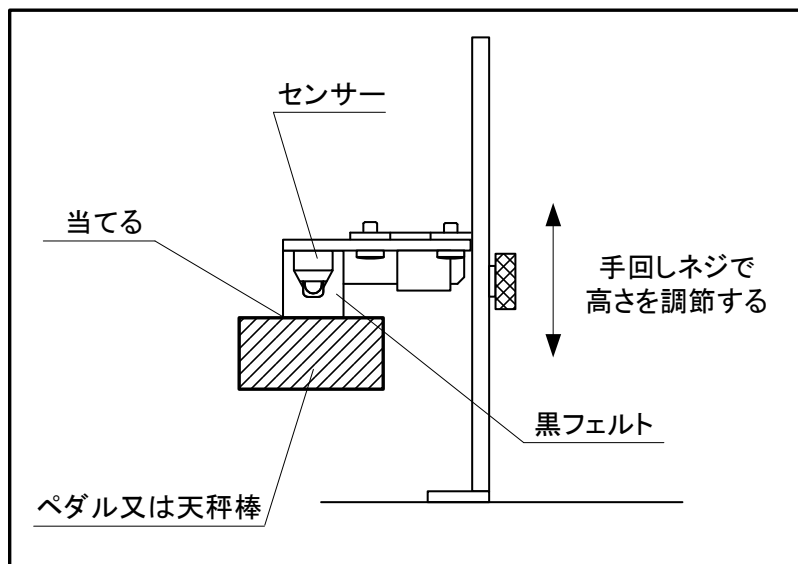


図2.5-2 センサー部の高さ調整

- (3) センサー部を戻し、センサーを中心としたペダルまたは天秤棒の上面に反射シートを貼り付ける。
 その際、貼り付け面にホコリ等の付着物がある場合は取り除く。

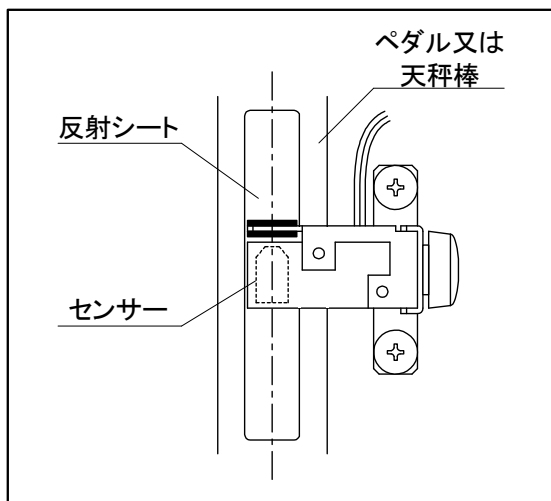


図 2.5-3 反射シートの貼り付け

- (4) ペダル操作を行い、障害がないことを確認してから、ペダルユニットを底板に固定する。
 (M3. 5 × 12mm タッピング 4本)
 (5) 黒フェルト部をペダルに当てる。この際、下図のようにセンサー部が水平になるよう調整する。

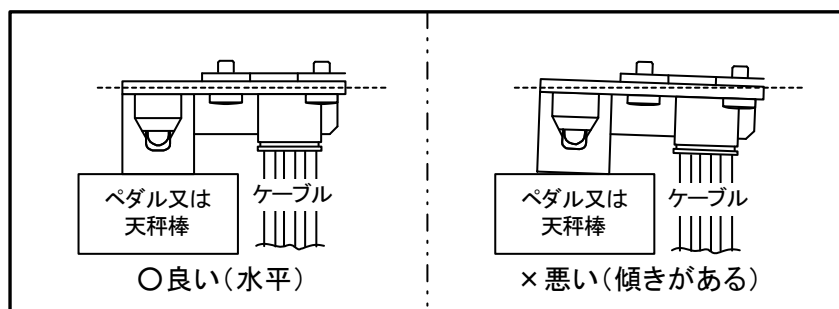
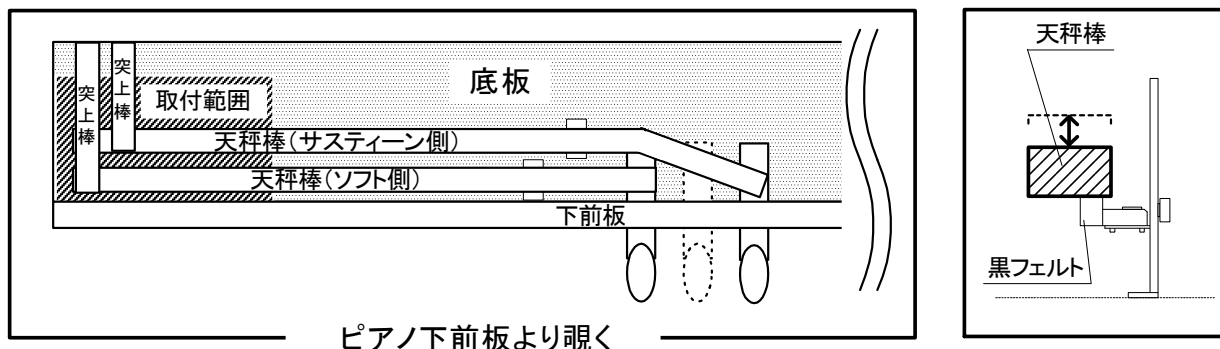


図 2.5-4 センサー部の取り付け状態

[ペダル周辺への取り付けが難しい場合]

天秤棒の左端（突上棒側）にペダルユニットを取り付ける。この場合、ペダル操作時に天秤棒の上下がペダル側と逆になる為、ペダルユニットの手回しネジを外し、センサー部を逆向きにして天秤棒の下側に配置する。反射シートもセンサー部に合わせて、天秤棒の下側に貼り付ける。



ピアノ下前板より覗く

図 2.5-5 センサー部の逆付け

- (6)ペダルユニットからの接続ケーブルをペダルや天秤棒、センサーの妨げにならないように引き回す。
- (7)ケーブルをキーボードユニットのコネクタP3へ接続する。その際、ケーブルが鍵盤の動きの障害とならないことを確認する。(6. 配線接続図を参照)

【注意!】ON/OFFの動作確認は、「3. 調整」で行うこと。

2. 6 音源BOXの取り付け

- (1)ACアダプタの電源プラグがコンセントへ差し込まれていないことを確認して、ACアダプタのジャックを音源BOXへ取り付ける。

【注意!】ACアダプタの電源プラグは、「3. 調整」までコンセントに差し込まないこと。

- (2)キーボードユニット接続ケーブルを音源BOXへ取り付ける。(6. 配線接続図を参照)
- (3)ピアノ前面視で右側、ボリュームのツマミが柵板正面と同面位置になるように取り付け位置を決定し、ネジ4本にて確実に固定する。(M3. 5×12mmタッピング 4本)

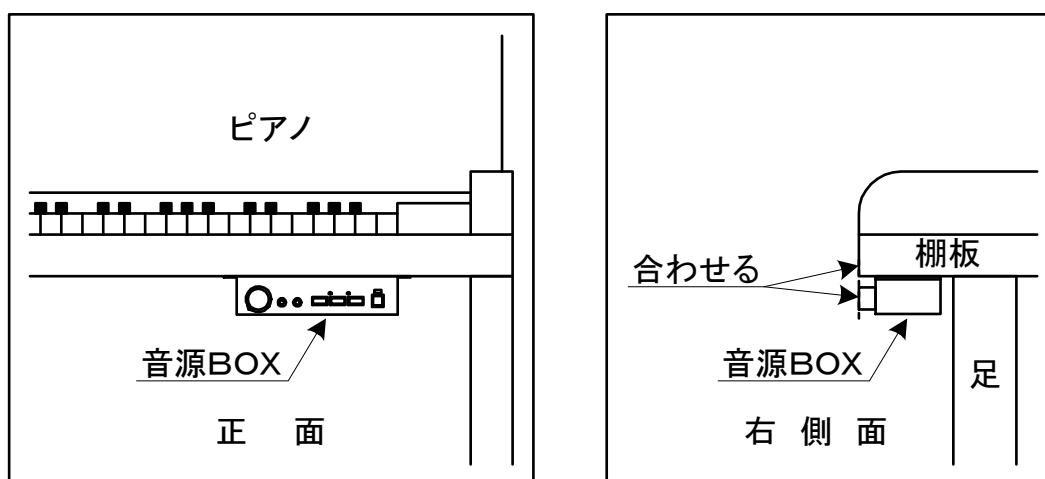


図 2. 6 - 1 音源BOXの取り付け位置

- (4)アクションを取り付ける。

3. 調整

3. 1 準備

- (1) 全て鍵盤をピアノへ取り付ける。
- (2) ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込む。
- (3) ヘッドホンをヘッドホンジャックに差し込み、ボリュームを適当な位置に合わせる。

3. 2 鍵盤センサー調整

全鍵盤のセンサー感度を最適にする。(図3. 2-1を参照)

- (1) 録音/再生スイッチ、音色選択スイッチを同時に押しながら電源スイッチをオンにする。
チャイム音が鳴り、メトロノームランプと録音/再生ランプが交互に点滅して、鍵盤センサー調整モードに変わる。
- (2) 鍵盤を一番深い位置まで一定の強さで打鍵して指を離すと、鍵盤が戻される際に打鍵された音程で発音されるので、確認できたら次の鍵盤を打鍵する。尚、打鍵する順番については問わない。
- (3) 全鍵盤の打鍵が終了したら、録音/再生スイッチを押す。全鍵盤が打鍵されていればチャイム音が鳴り、メトロノームランプと録音/再生ランプが消灯して鍵盤センサー調整が終了する。この時、打鍵されていない鍵盤があれば、チャイム音は鳴らずにその音程が発音されるので、その鍵盤を打鍵する。また、複数の鍵盤が打鍵されていない場合は、その中で一番低い音程が発音される。全ての鍵盤が打鍵されるまで、鍵盤センサー調整モードは継続される。

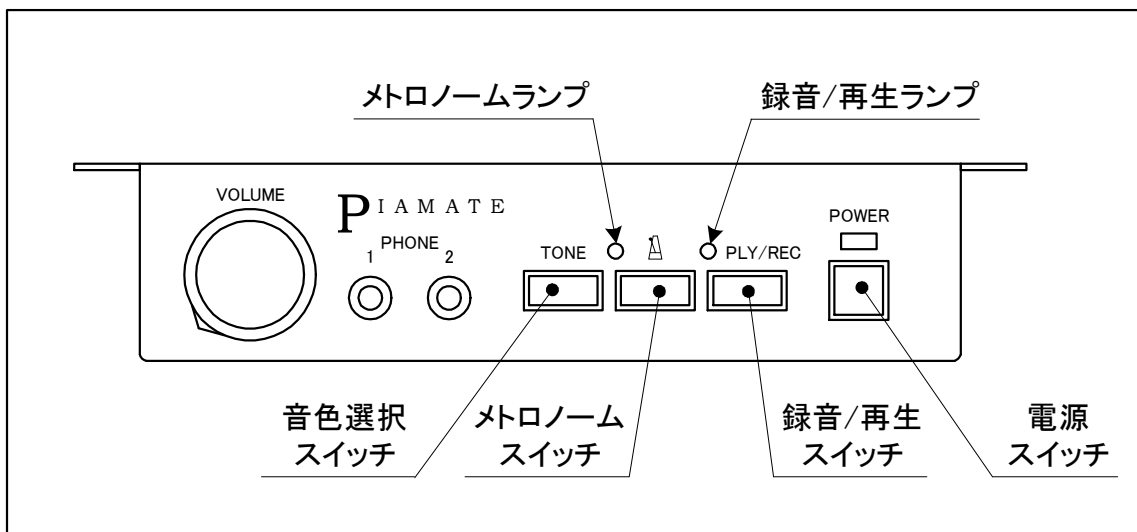


図 3. 2 - 1 鍵盤センサー調整

【注意！】工場出荷時の設定に戻した場合や音源BOXを交換した場合にも、鍵盤センサー調整は必ず行うこと。

3. 3 ストップレバーの調整機能

取り付け後のストップバーの具合にて、更に調整が必要な場合は下図のネジを調整する。

- ①ストップバーの傾きが足りない場合は、アジャスターナットを緩めた後アジャスターボルトを回しワイヤーの張りを調整する。調整後はボルトが緩まないように、ナットを確実に締め付けること。
- ②消音解除時にストップバーが傾き過ぎるときは、レバー押さえナットを緩めた後レバー押さえネジを左方向に緩め、ストップバーの傾きを調整する。調整後はネジが緩まないようにナットを確実に締め付けること。また、消音解除ができないときは、右方向に締める。

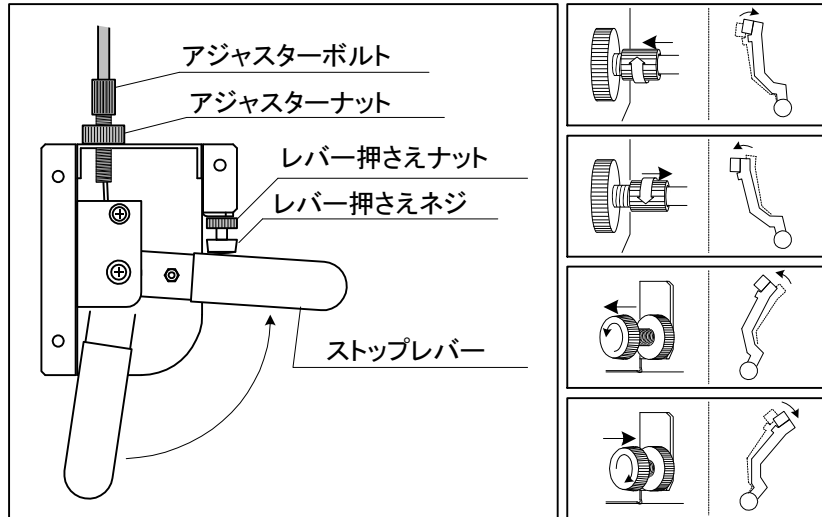


図 3. 3 - 1 調整ネジ位置

3. 4 ペダル調整

各種ペダルの機能がONする深さを調整する。

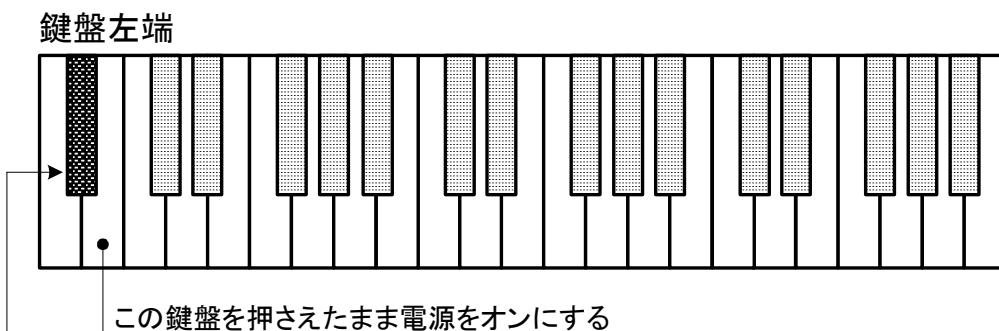
- (1) 下記鍵盤図に示す白鍵と黒鍵を押しながら電源をオンにすると、チャイム音が鳴り、ペダル調整モードに変わる（以降、白鍵と黒鍵は押さえたまま）。
- (2) 調整したいペダルを好みの深さまで踏み込んだ状態で、対応スイッチ表にあるペダルに対応したスイッチを押すとチャイム音が鳴り、ペダルの深さが記憶される。

対応スイッチ表（図 3. 2 - 1 を参照）

ソフトペダル	音色選択スイッチ
ダンパー（サスティーン）ペダル	録音/再生スイッチ

- (3) 片方のペダルも同様に調整したら、ペダルと鍵盤を戻す。

【鍵盤図】



4. 点検

- (1)ピアノ内のケーブルが、各機構に干渉しないように、ケーブルクランプにて固定する。
- (2)ピアノの上前板、下前板及び、鍵盤蓋、鍵盤押さえの外装を全て取り付けて演奏し、異音または消音不良がないか確認する。

【注意！】ACアダプタおよびユニット間の各ケーブルの抜き差しは、必ず電源を切って行うこと。

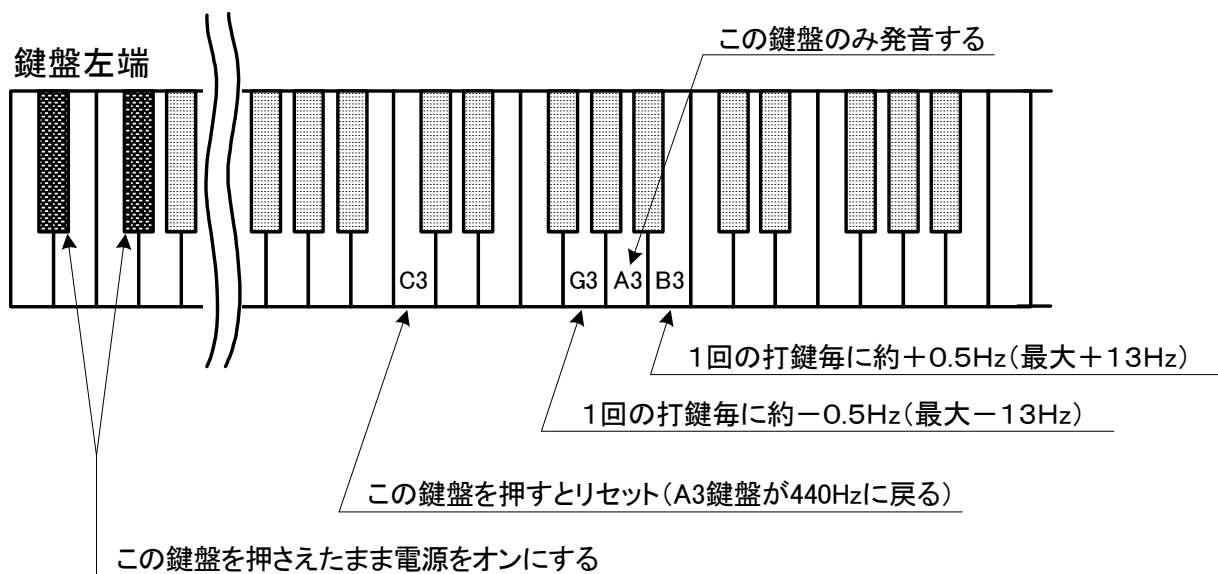
5. 音源の設定

必要に応じて、SPR-700の設定を変更できる。

5. 1 チューニング

- (1)下記鍵盤図に示す鍵盤左端の黒鍵を押しながら電源をオンにする。
チューニングモードになるとチャイム音が鳴る（以降、黒鍵は押さえたまま）。
- (2)鍵盤G3とA3とB3を使用して音源のチューニングを行う。
- (3)押さえたままの黒鍵から指を離す。この時、チューニングで変化させた音程に設定される。

【鍵盤図】



5. 2 黒鍵音量調整

黒鍵と白鍵に音量差が生じる場合、黒鍵音量を調整することで、白鍵音量に合わせる。

(1) 下記鍵盤図に示す鍵盤左端の黒鍵を押しながら電源をオンにする。

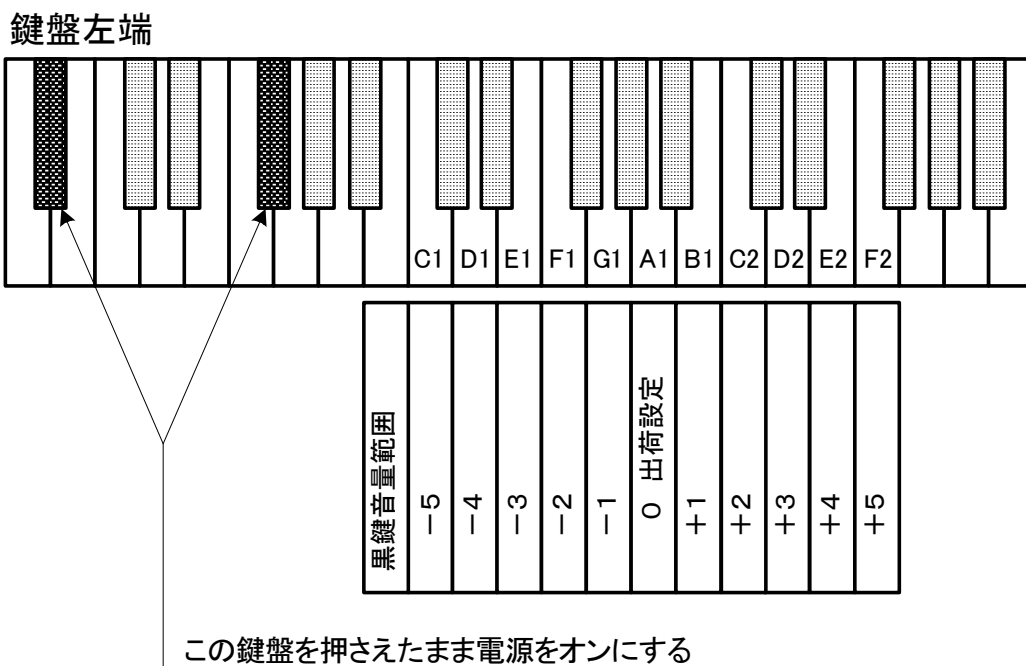
黒鍵音量モードになるとチャイム音が鳴る（以降、黒鍵は押さえたまま）。

(2) 黒鍵音量（-5～0～+5）を選択する。白鍵に比べ、黒鍵音量が大きい場合は一側を選択する。また、黒鍵音量が小さい場合は+側を選択する。

(3) 押さえたままの黒鍵から指を離す。この時、最後に選択した黒鍵音量が設定される。

設定中は白鍵と黒鍵の音量差を比較することができない為、設定後に音量差の確認を行う。

【鍵盤図】

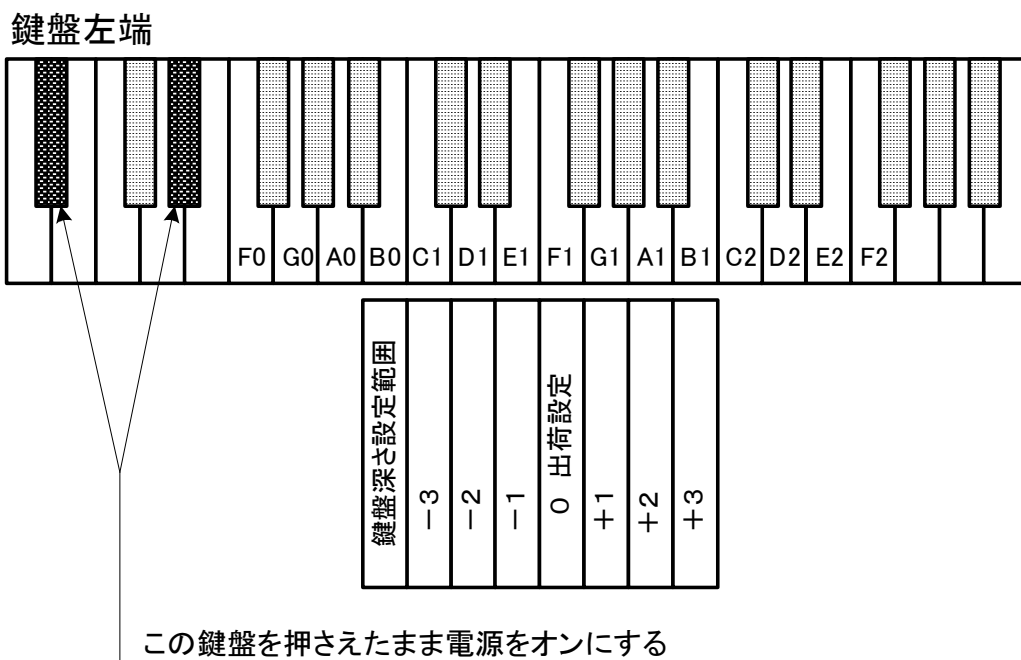


5. 3 鍵盤深さ設定

鍵盤を弾いた時の発音する深さの設定をする。

- (1) 下記鍵盤図に示す黒鍵を同時に押しながら電源をオンにすると、チャイム音が鳴り、鍵盤深さ設定モードに変わる（以降、黒鍵は押さえたまま）。
- (2) 浅いところで発音させたい場合は一側を選択する。また、深いところで発音させたい場合は+側を選択する。
- (3) 押さえたままの黒鍵から指を離す。この時、最後に選択した鍵盤深さが設定される。設定中は鍵盤からの発音ができない為、設定後に深さの確認を行う。

【鍵盤図】



5. 4 鍵盤ごとのレベル調整

ある特定の鍵盤において、タッチ感が異なるなどの理由で音量差を生じるピアノの場合、その鍵盤に対して「鍵盤ごとのレベル調整」を行う。これにより、特定の鍵盤のみ音を大きくしたり小さくすることで、音源BOXからの音量バランスを均一にする。

(1) 下記鍵盤図に示す黒鍵と白鍵+側マークを同時に押しながら電源をオンにすると、音量レベルを大きくするモードになり、黒鍵と白鍵-側マークを同時に押しながら電源をオンにすると小さくするモードになる。

右側44鍵盤の調整を行う場合は鍵盤左端で操作を行い【鍵盤図1】、左側44鍵盤の調整を行う場合は鍵盤右端で行う【鍵盤図2】。レベル調整のモードになるとチャイム音が鳴る(以降、黒鍵白鍵は押さえたまま)。

(2) 音量レベルの調整を行いたい鍵盤を一回押すことで、1段階レベルが変更する。各鍵盤の変更可能範囲は出荷設定±5段階となっている。

(3) 押さえたままの黒鍵白鍵から指を離す。この時に変更した値が設定される。

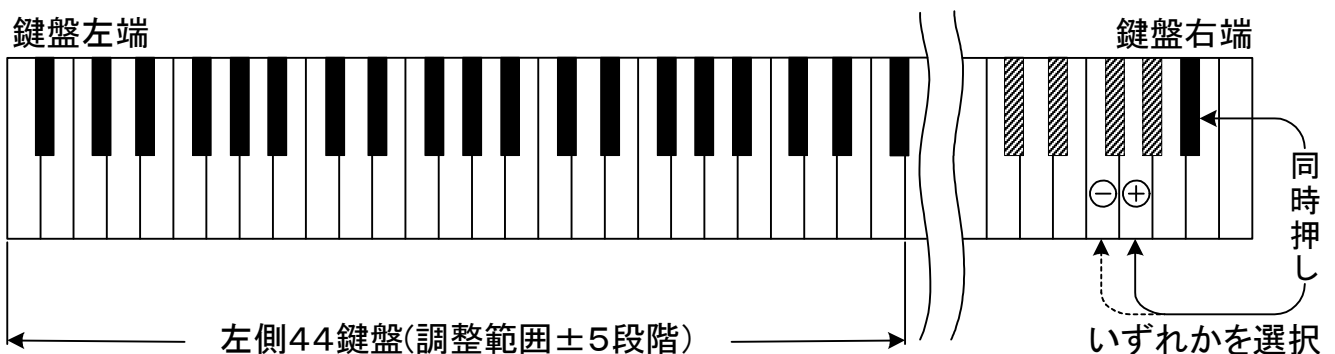
設定中は他の鍵盤との音量差を比較することができない為、設定後に音量差の確認を行う。

全88鍵盤の設定内容をリセットし、出荷設定に戻すには、【鍵盤図1】に示す黒鍵とRマークの白鍵を同時に押しながら電源を入れる。

【鍵盤図1】



【鍵盤図2】



5. 5 出荷設定

音源の設定を工場出荷時の設定に戻す。

【注意！】下記に示すように調整時の設定やユーザ設定もすべて工場出荷設定となる。

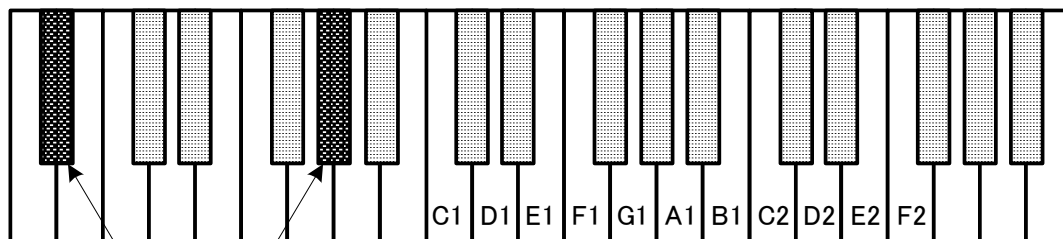
【出荷設定内容】

音色：ピアノ 1
リバーブ：ルームのレベル 1
メトロノーム：拍子=4、テンポ=80、音量=レベル3
チューニング：440Hz
黒鍵音量調整：白鍵との音量差=0
鍵盤ごとのレベル調整：全88鍵盤音量差=0
鍵盤深さ設定：0
鍵盤センサー調整：クリア

- (1) 下記鍵盤図に示す黒鍵を押しながら電源をオンにすると、チャイム音が鳴り、出荷設定に戻った事を知らせる。
- (2) 押さえたままの黒鍵から指を離す。
- (3) 鍵盤センサー調整を行う。

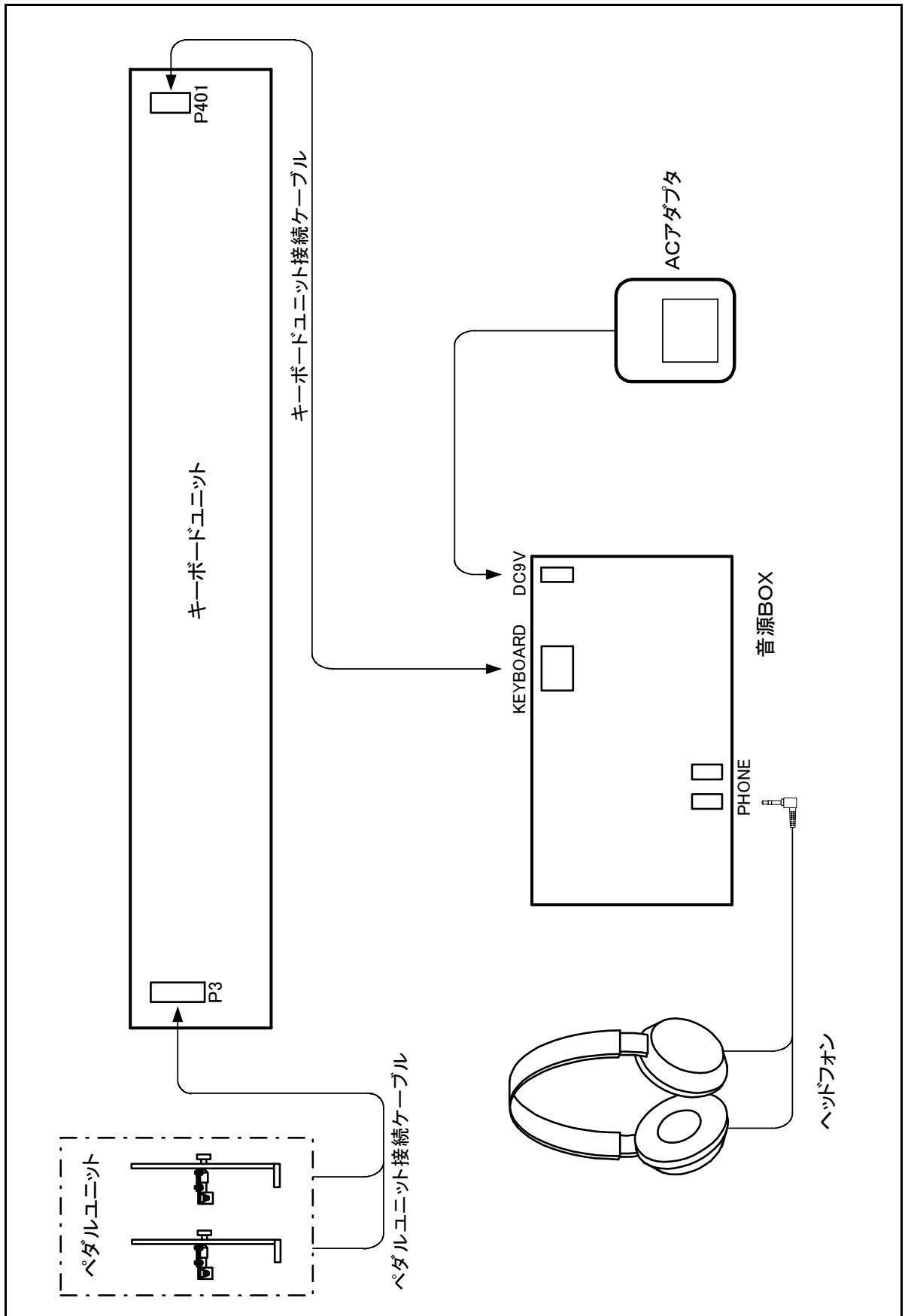
【鍵盤図】

鍵盤左端



この鍵盤を押さえたまま電源をオンにする

6. 配線接続図



SPR-700 接続図

7. メンテナンス

本製品の性能を損なうことなく、末永くご使用頂くため、ピアノの調律や整調と同様に、下記のメンテナンスを定期的に行う。

- ①キーボードユニットやペダルユニットのセンサー部の清掃
- ②キーボードユニットの高さ調整と鍵盤センサー調整
- ③ペダルユニットの調整
- ④鍵盤音量にバラツキを感じられた場合の鍵盤センサー調整

8. 本体仕様

同時最大発音数	90音	
音色選択	ピアノ1、ピアノ2、ホンキートンクピアノ、ハーブシコード、エレクトリックピアノ、オルガン、その他73音色から選択可能	
リバーブ	ルーム、ホール（残響量選択可能）	
メトロノーム	拍子：なし、2、3、4、5、6、8 テンポ：30～199	
録音・再生	10バンク、録音容量約10,000音/バンク 変速再生（0.5～2倍）	
チューニング	±13Hz（427～440～453Hz）	
黒鍵音量調整	±5段階調整	
鍵盤深さ設定	±3段階調整	
鍵盤ごとのレベル調整	±5段階調整	
デモ演奏	10曲	
外部端子	アナログ	ヘッドホンジャック×2、ライン出力×1
	デジタル	MIDI（IN/OUT）：オプションケーブル使用
電源電圧	DC+9V（専用ACアダプタ）	
付属品	ヘッドホン、ACアダプタ、取扱説明書	
オプション	専用MIDIケーブル、スピーカ	

●本製品の仕様、外観、部品等は性能向上の為、予告なく変更することがあります。

変更履歴

2011年	4月18日	初 版	発行
2011年	4月20日	1.1版	更新 P19, 27
2011年	5月23日	1.2版	更新 P15

消音ピアノユニット SPR-700 取付説明書

製造元：ニッシンエレクトロ株式会社
住 所：〒188-0014 東京都西東京市芝久保町4-4-32
電話番号：042-465-9321（代）
F A X：042-465-7255

本書の内容は改善の為、予告なしに変更することがあります。